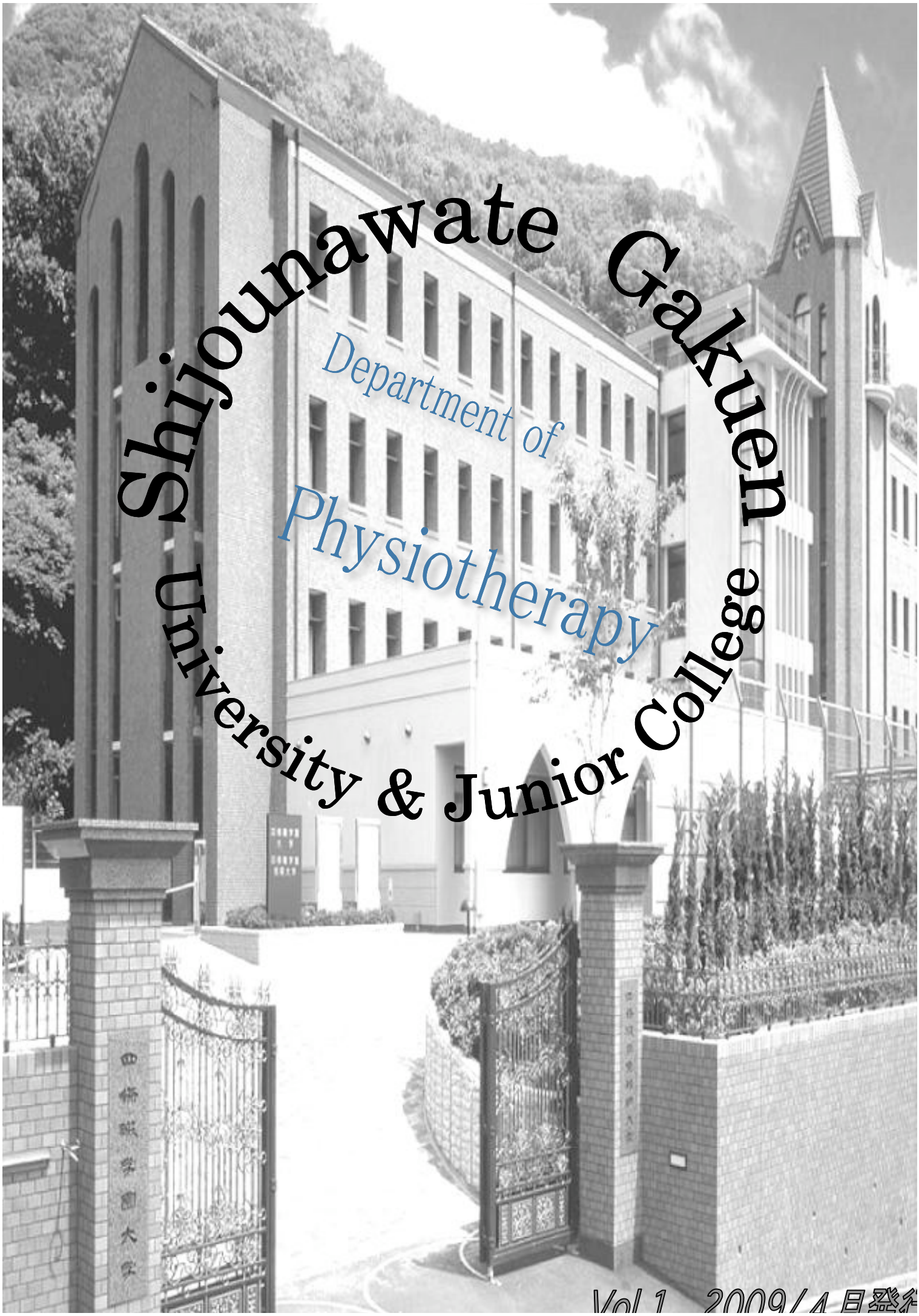

Shijounawate Gakuen University & Junior College

Department of Physiotherapy

Vol.1 2009/4月発行

四條畷学園大学・短期大学同窓会

理学療法分科会の発会にあたって

リハビリテーション学部　学部長　森永敏博

平成 13 年に四條畷学園に短大リハビリテーション学科理学療法専攻が新設され、四期生まで併せて 161 名が卒業しました。平成 17 年には、大学リハビリテーション学部に改組され、今春にはその一期生 30 名が新たに卒業することになりました。毎年、新しい卒業生が巣立ち、同窓の仲間が増えることは大変喜ばしいことだと思っています。

医系はおろか理系の学部・学科すらない四條畷学園にリハビリテーション専門職を養成する課程の新設が計画されたとき、一部にその設立を危ぶむ声すらあったと聞いています。そのような逆境ともいえるなかで、短大、大学と続けて卒業生を送り出すことが出来たのは、学内外の関係各位による多大なご理解とご協力を得られたたまものだと感謝しています。

本学は、言うまでもなくリハビリテーション医療の一翼を担う専門職を養成するという具体的な目標を掲げた大学です。その多感な青春の一時期に同じ目的に向かって勉学に勤しんだ 4 年間の思い出は、何物にも換え難い財産といえます。その思い出は時を経るほど鮮明に懐かしくなるものです。

また日進月歩といわれる医療技術は、日々の研鑽を怠ることが出来ません。学会や研修会に積極的に参加し、研鑽を続けていかなければならないのは当然ですが、折りにふれ学術交流や情報交換が必要となりますが、そんな場合でも同窓生は心強い存在です。いつまでもその繋がりを大切にしたいものです。

大学の発展には卒業生の活躍が何よりの「活力」だといわれております。
臨床の出ても飯盛嶺の学び舎を忘れずに、同窓の先輩後輩の絆を大切にしていただきたいと思います。

本学の発展と卒業生皆さんのご活躍を願って

平成 21 年 3 月吉日

卒業生主催研修会報告

「スポーツ傷害の理学療法とその応用」

平成 21 年 1 月 18 日、第一回卒業生主催研修会が学び舎の四條畷学園大学リハビリテーション学舎にて開催されました。

講師に、大阪電気通信大学医療福祉工学部理学療法学科で教壇に立たれている小柳磨毅先生をお迎えして「スポーツ障害の理学療法とその応用」というテーマで講演をして頂きました。

当日は、新春とは申しながらまだ堪えがたい寒さが続き小雨が降る中、1 期生から 4 期生の卒業生、教員を含め総勢 99 名の先生方が参加され、とても充実した研修会となりました。

講師：小柳　磨毅　先生（大阪電気通信大学）

講演では、スポーツ傷害を mobility：ストレッチング、stability：筋力強化トレーニング、coordination：協調性の３つの観点から研究報告を含めて講演頂きました。

「投球傷害」では、投球動作における最終域での前方への牽引によって後方の疼痛の発生が考えられることや投球動作を三次元動作解析装置により得られたデータを筋骨格標本によって再現されており、こういったデータを用いることでアスリート本人へのフィードバックも行いやすくなり、図を用いて説明することで他職種、トレーナーへのストレッチの方法も分かりやすく的確に行えるようになることでアスリートから生涯スポーツといった地域での社会貢献にもこれからの PT は活躍の場面が広がってきているとのことでした。「ランナー膝」では、ACL 再建後の加速リハについて、移植腱への力学ストレスにより大腿骨孔に隙間が発生する可能性があり、1 w固定群と 2 w固定群において 12w後の ROM には有意差は見られず、２w固定が安全性から考えると良いのではないかとのことでした。

「enthesopathy(腱靭帯付着部症)」では、腱靭帯移行部では４段階の組織変化によって骨端に付着しており靭帯の圧迫ストレスによっておこる滑膜炎と靭帯の伸張ストレスによっておこる組織炎の二つの病態が含まれており状態をよく確認して治療手技の選択を行う必要があるとのことでした。また習慣性脱臼の Side　Bridge での CKC トレーニング、ACL 損傷、PCL 損傷での Bridge 動作を用いてのトレーニングのポイントを図や X 線を使用して骨の動きを目視化した映像を用いて説明して下さいました。最新の研究や機器を利用して得られた画像、映像を随時織り交ぜておられ、とても興味深く今後の臨床おいて考えることが多い内容で 90 分という時間があっという間に過ぎてしまいました。また最後にスキルアップの研修会として、電気通信大で行われているワークショップの案内がありました。

末筆になりましたが、今回講演していただきました小柳先生をはじめ、研修会の準備をしていただいた諸先生方に厚く御礼申し上げます。

（四條畷学園大学同窓会　理学療法分科会　会誌担当）

懇親会

研修会終了後、懇親会が開かれ懐かしい仲間、先生方との交流の場がもたれました。

理学療法分科会の立ち上げに関して

理学療法分科会 代表 山田隆司

謹啓

春光うららかな季節を迎え、皆様にはますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

去る一月十八日に四條畷学園大学にて卒業生を対象とした研修会・懇親会が行なわれました。天候不順の中、四條畷学園短期大学一期生から四期生、教員含め約百名もの方にご参加いただき、非常に有意義な時間を過ごすことができました。そして、その席にて、同窓会組織として「四條畷学園大学・短期大学 理学療法分科会」を立ち上げることを報告させて頂きました。

理学療法分科会の活動としては、会員の方を対象に研修会の開催や会報の送付、役員総会の開催および報告、四條畷学園大学からの情報発信等を考えております。今回参加いただいた方も、即日に入会して頂きました。今春卒業する大学一期生も加えて、四條畷学園の卒業生として一層の交流と親睦を深めていきたいと思っております。

つきまして、今回参加できなかった皆様にもぜひ入会をお願いしたいと思います。手続きに関しては、下記をご参照ください。皆様のご入会を、役員一同心よりお待ちしております。

時節柄、御身御自愛ください。皆様の一層のご活躍をお祈りいたします。

謹白

入会手続きについて

1.注意事項説明書に同意する

2.会費の入金（永久会費5,000円）

会費振込先 りそな銀行西宮支店（店番号613） 普通 口座番号69096

四條畷学園大学・短期大学同窓会 理学療法分科会

3.申込書の送付（下記住所宛）、あるいはメールでの申し込み

※ メールでの申し込みについて（下記文章をそのままお使い下さい）

送信先：pt_bunkakai@yahoo.co.jp

件名 ： 四條畷学園大学・短期大学 理学療法分科会 入会申し込み

本文 ： 氏名（〇期生）

研修会案内等の郵送先（職場またはその他希望住所をご記入下さい）

注意事項説明書に同意しましたので、理学療法分科会に入会を希望します。

〒574-0011 大阪府大東市北条5丁目11番10号

四條畷学園大学リハビリテーション学部事務室内 理学療法分科会

平成20年度　会計報告

研修会・懇親会　会計報告

大項目	小項目	@	n	収入	支出	備考
研修会・懇親会参加費	1期生		28	28,000		
	2期生		27	27,000		
	3期生		15	15,000		
	4期生		26	26,000		
	教員		3	3,000		
郵送物送料	葉書代等	22,034			22,034	
懇親会準備費	当日飲食物	38,210			38,210	
	事前準備飲食物	34,268			34,268	
講師料(小柳先生)		10,000	1		10,000	→寄付
講師料(小柳先生)寄付		10,000		10,000		
合計				109,000	104,512	
				差額	¥4,488	

同窓会運営費　会計報告

大項目	小項目	@	n	収入	支出	備考
同窓会費	1期生		27	135,000		
	2期生		26	130,000		
	3期生		17	85,000		
	4期生		26	130,000		
	教員		8	40,000		
	大学1期生		30	150,000		
同窓会準備費	会議時飲料など	23,300			23,300	
	公印	1,505			1,505	
	口座開設・印鑑	315			315	
第一回研修会				109,000	104,512	
合計				779,000	129,632	
				差額	¥649,368	

編集後記

　早いもので研修会から、はや３ヶ月が経とうとしています。今回、卒業生主催の研修会及び同窓会の立ち上げに関して、まさに鶴の一声から始まりました。各学年の有志を募り、会議を重ねていくごとに次第に研修会の内容、同窓会幹事の役割分担がされ、平成 21 年 1 月 18 日に皆様の承認を得て、今、まさに四條畷学園大学・短期大学同窓会理学療法分科会が動き出し始めました。短大・大学の卒業生 191 名、そして、今後卒業される方々の交流の場として研修会等の企画・運営を行っていき、技術の研鑽や絆を深める場となることを祈念致します。

同窓会　会誌担当　中山　英俊